



Title	巻頭言：第21号の発刊に寄せて
Author(s)	
Citation	母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究. 2025, 21
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/102053
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

巻頭言 第 21 号の発刊に寄せて

本学会は、個人の中で複数言語が統合的に発達していく姿を包括的に捉えるという理念のもと、バイリンガル教育（母語教育や三言語以上のマルチリンガル教育を含む）の向上を目的とした活動に取り組んでいます。読書会・研修・研究大会の開催に加え、本誌『母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究』を通して、教育研究・理論・方法論・制度および各種教育現場の実践に関する議論を深めてきました。

本学会の前身である研究会時代を含めると発足から 21 周年目にあたる 2024 年度は、次の 10 年を見据え、研究者と実践者が出会い学び合う場をさらに充実させ、新たな参加者を積極的に歓迎する方針を掲げて運営してまいりました。

本誌については、より多くの方に活用していただくために、今号より刊行直後に一般公開する形に切り替えました。また、会員のみなさまの共同研究の機会を広げるために、次号以降は筆頭執筆者が会員であれば投稿を受け付けることにいたしました。さらに、厳格な査読体制のもと質の高い研究成果を発信しているという実績を踏まえ、『母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）研究』の呼称を「紀要」から「ジャーナル」へ変更し、本誌の学術的な位置づけを明確化して国際的な可視性を高めることにいたしました。その一環として、学会活動録はウェブサイトに掲載し、本誌は研究報告に特化します。

今号には、研究大会「母語・継承語・バイリンガル教育研究の未来を描く～次の 10 年を見据えて～」から「MHB における情報保障」の講演録を収録した他、研究論文 2 本、調査・実践報告 1 本、研究ノート 4 本を掲載しています。大会発表を踏まえて論文化された研究や、新たな領域や研究手法に挑戦した研究が集まり、本学会の多様な学びが新たな研究成果として結実したことをうれしく思っております。

最後になりましたが、投稿者、査読者、編集委員長ならびに編集委員の皆さまのご尽力に心より感謝申し上げます。本誌が皆さまの教育・研究活動の深化とネットワーク拡大の一助となれば幸いです。

母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）学会会長

小澤 伊久美

2025 年 5 月